



No. 1 (2004年1月発行) 発行：北海道海洋生物科学研究会

- | | |
|------------------------------|------------|
| 1. はじめに | |
| 2. 挨拶 「北海道海洋生物科学研究会」の設立にあたって | 代表幹事 鈴木 稔 |
| 3. 報告 第2回北海道海洋生物科学シンポジウムを終えて | 高橋延昭 (札医大) |
| 4. 事務局日より | |

1. はじめに

明けましておめでとうございます。北海道に待ちに待った「北海道海洋生物科学研究会」が発足しました。本研究会の唯一の「しぼり」は「海洋(水生)生物」ということだけです。北海道に在住、または、関連する「海洋(水生)生物」のさまざまな研究・調査等を行っている人々の情報交換や親睦の場として当研究会をご活用していただければ幸いです。研究・調査等を行ってなくても、これらの人々と交流したい人々の参加も歓迎します。年1回程度、皆様とお会いできるのを楽しみにしています。また、ニュースレターは年に2～数回発行する予定です。このニュースレターも皆様の情報交換の場としてご活用ください。



本会に関する問い合わせ・入会希望は、事務局(沖野 龍文) Tel011-706-4519、電子メール okino@ees.hokudai.ac.jp

ニュースレターへの情報提供・投稿などに関するお問い合わせは、ニュースレター編集担当(栗原 秀幸) Tel0138-40-5561、電子メール kuri@fish.hokudai.ac.jp までお願いします。

2. 挨拶

「北海道海洋生物科学研究会」の設立にあたって

代表幹事 鈴木 稔

「北海道海洋生物科学研究会」は、2003年10月31日に行われました第2回北海道海洋生物科学シンポジウムの折に、「発足式」を開催し晴れて正式にスタートしました。

本「研究会」は、道内で海洋生物を研究対象としている研究者の情報交換および交流の場として、また、諸分野の研究者が協力して海洋環境における諸課題を解決することを目的としております。さらに、「研究会」で得られた成果を広く地域社会へ発信することも目的の一つです。

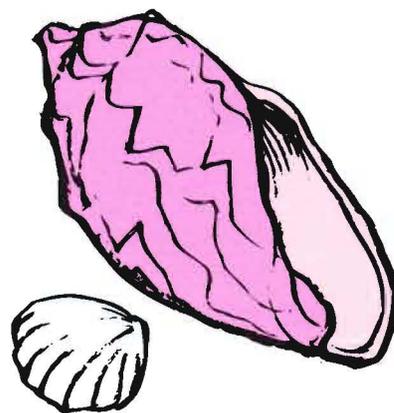
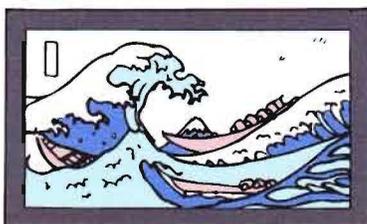
「研究会」の主要な目的である会員間の“情報交換と交流”にとって、シンポジウムの開催とニュースレターの発刊は欠かせません。今年開催予定の第3回シンポジウムは、北海道大学大学院水産科学研究科の板橋先生と栗原先生が中心となって函館で計画して下さいになりました。また、第4回シンポジウムは、来年の開催を目指して北海道大学大学院薬学研究科の小林先生と津田先生のところで検討して下さいしております。

一方、ニュースレターは担当を快諾下さった栗原先生の編集で「創刊号」が発行の運びとなりました。このニュースレターでは会員の研究紹介や近況、および異分野の情報などを掲載して共同作業のネットワークを広げていきたいと思っております。

将来的には、「個人会員」だけでなく企業やグループも参加できる「賛助会員」制度を整備するなどして会員の拡大を図り、「研究会」が主催したり、あるいは共催したシンポジウムや講演会には財政的な援助をできるようにしたいものです。

今後の「研究会」の進め方など検討すべき課題は多々ありますが、無理せず私達の力量の範囲内で息長く続けていきたいと考えております。「企画」を実行に移す際には、基本的には「企画」した本人のやりたいようにやり、他の会員はそれをサポートして（少なくとも「足」は引っ張らないで）やっていくというのが私のスタンスです。

「研究会」が道内における海洋生物科学研究の“活性化剤”となることを期待しております。「企画」やご意見などございましたら代表幹事が事務局までお寄せ下さい。



3. 報告

第2回北海道海洋生物科学シンポジウムを終えて

高橋延昭（札幌医科大学医学部附属臨海医学研究所）

2002年11月1日（金）、鈴木稔現代表幹事の企画「北海道における海洋生物科学研究の現状を探る」と題して、北大学術交流会館で行われ、シンポジウムは盛況に終り、ホテルで行われた招待懇親会に出席した。終演近く、ほろ酔い気分になり、鈴木先生が登壇したのを見て拍手で迎えた。ややあって、先生は「来年は高橋先生にお願いしたい」と言われたので周りを見渡したが高橋という方が居られず、その高橋は自分であると伏谷伸宏先生に指摘された。斯くして、第2回目がスタートしたのであった。

鈴木先生から「心配することは無い、背伸びせず先生の範囲内でことを進めて下さい」とのお言葉を得て、第2回北海道海洋生物科学シンポジウムは札幌医大と臨海医学研究所の共同研究者を中心にプログラムを組んだ。主題は「21世紀の北海道における海洋生物科学研究の動向を探る」、副題は「北の海に健康素材を求めて」と少し大風呂敷を広げすぎた感があったが、旗は大きい方が良いと判断してそのままとした。また、特別講演を、東大大学院農学生命科学研究科の伏谷伸宏教授にお願いした。先生は誠に本シンポジウムの主題と成るような「海に抗がん剤を求めて」と題して御講演なされた。その探索の歴史と御自身の膨大なデータを御紹介いただき、聴衆者からも絶大なる賛辞の声があがった。多分、このような題で充分お話しをうかがえるのは先生が日本の第一人者であるからだと思う。

2003年10月31日（金）、札幌医大記念ホールで、大会長神保孝一（医学部長）のもと、午後1時から受付を含めて100名（学外50名）の参加を得て開催された。臓器移植、再生医療、抗癌剤、生命とミネラル、特別講演、新規スクリーニング法の順で話が進められた。底流として北の海の素材を生かした研究を紹介することに勤めたが、程度の差異は認められたが、充分それへの配慮を窺い知れた。臓器移植のセッションではウニ由来の糖脂質免疫抑制効果を竹ノ内美香東洋水産研究員が、カジカ、ワカサギ、カレイ由来の不凍物質を津田栄産業技術総合研究所主任研究員が報告した。後者は生干しカンカイ筋組織から不凍物質の存在を報告し注目された。再生医療のセッションでは肝臓組織再構築の際、サケコラーゲンを足場材料とする方法を三高俊広札幌医大教授が、また、献血に頼らず、造血幹細胞から赤血球と血小板を作製する方法を松永卓也札幌医大講師が講演し、増殖作用を有する海水ミネラルの応用に示唆を与えた。抗癌剤のセッションでは水産廃棄物コンブ仮根の食品としての利用を西澤信東京農大教授が、医薬品としての利用を堀田清北医療大助教授が報告した。生命とミネラルのセッションでは物質循環に果たすリンの役割の大切さを高橋延昭札幌医大助教授が述べた。新規スクリーニング法のセッションではアレルギーに対する新規生理活性物質の探索応用方法を佐原弘益札幌医大講師が、癌抑制遺伝子の活性化方法の開発とウニ天然物での試験を一宮慎吾札幌医大講師が、自作癌細胞転移株を用いた癌転移抑制物質探索方法を八十島孝博札幌医新病院長が、癌などの病に罹患した場合のDNAの周期性の変化を驚見紋子札幌医大助手が、膨大な遺伝子情報を背景に、各階層（蛋白レベルなど）のデータベースの活用で目的とする分子に対する抽出同定法の解説と、それを海洋新規生理活性物質の探索に利用することの優位性を鳥越俊彦札幌医大講師がそれぞれに強調し報告した。後半のセッションはまだ十分に海洋天然物を利用したものではないが、21世紀、今後の展開に大変期待が寄せられた。

4. 事務局だより

1) 会員と設立基金

平成15年10月末のシンポジウムの案内とともに、入会を呼びかけましたところ、お陰様で道内外（国内外？）から25名の会員（うち学生1名）が集まりました。また、高橋延昭先生（札医大）から第2回シンポジウムの剰余金より5万円を研究会の設立基金としてご寄附いただきましたので、報告いたします。

平成15年12月1日現在の会員の皆様（敬称略）

麻生 真吾（釧路水試）	阿部 剛史（北大総博）	石井 貴広（北大院地環）
石井 正孝（泊村役場）	板橋 豊（北大院水）	一宮 慎吾（札医大）
内田 卓志（北水研）	沖野 龍文（北大院地環）	小熊 孝幸（岩内町役場）
尾島 孝男（北大院水）	埴山 雅秀（北海道東海大）	栗原 秀幸（北大院水）
小林 淳一（北大院薬）	佐々木 達（エコニクス）	佐原 弘益（札医大臨海）
澤田 美智子（産総研）	鈴木 稔（マレーシアサバ大）	高橋 是太郎（北大院水）
高橋 延昭（札医大臨海）	辻 浩司（釧路水試）	津田 正史（北大院薬）
西澤 信（東京農大）	堀田 清（北海道医療大）	町口 裕二（水産庁）
山岸 喬（北見工大）		

2) 幹事会報告

第2回シンポジウムおよび研究会総会の直前に行われた第1回幹事会の内容をご報告します。まず、平成15、16年度の幹事会が下記の6名と決まりました。今年の活動は、函館で板橋先生、栗原先生を中心に企画していただきます。企業の方を賛助会員として迎え入れることについても話し合いましたが、結論に至りませんでした。また、代表幹事の鈴木先生が今年マレーシアに滞在する予定ではあるけれども、メールなどを活用して運営することとして体制は変えず、必要のあるときには高橋先生に代理を務めていただくことになりました。会員に配布するニュースレターを発行することとして、栗原先生が担当をお引き受けいただきました。（文責：沖野）

幹事会 鈴木 稔（代表幹事）、佐々木 達（会計監査）、高橋 延昭、
栗原 秀幸（ニュースレター編集）、津田 正史、沖野 龍文（事務局）

3) 会員募集

入会は年会費（1,000円）を郵便振替で払い込むだけです。

口座番号 02700-1-93161 加入者名 北海道海洋生物科学研究会

ご連絡いただければ、払込票をお送りします。
事務局（沖野 龍文）Tel.011-706-4519、電子メール okino@ees.hokudai.ac.jp

4) 北海道で行われる他学会情報

1. 第7回マリンバイオテクノロジー学会大会（札幌、平成16年6月17～19日）

<http://staff.aist.go.jp/k.nakajima/MB2004.htm>、発表申し込み締め切り3月15日、

CW ニコル氏の市民講演会、DE Morse 博士の特別講演、企業シンポジウム、その他5つのシンポジウム（海洋深層水利用の高度化、水産生物における分子集団遺伝学的研究の展開、身近な厄介者フジツボ：その不思議な能力と付着防除への道を探る、集団としての微生物と動植物との間のシグナリング研究の展開、海洋生物由来の機能性天然分子の探索と開発）が行われます。

2. 日本藻類学会第28回大会（札幌、平成16年3月27～30日）

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsp/billboard/notice031105.html>、発表申し込み締め切り1月10日、

公開シンポジウム（仮題：北海道における有用海藻研究の現状）、若手研究者・大学院生対象のワークショップ（室蘭）が行われます。

編集後記

なんとか、ニュースレター（No.1）の発行にこぎつけました。海洋生物の研究者等が多い北海道の地で、本研究会が小さくても末永く続けばと思います。そのためにニュースレターが少しでも役立てば幸いです。これからちょっと編集のセンスでも勉強します。皆様の情報もどんどんお寄せください。情報の「海」なら喜んで溺れます…。(栗)